

第 6 回原子力委員会定例会議議事録

1. 日 時 2007年2月13日（火）10：30～11：25

2. 場 所 中央合同庁舎4号館6階共用643会議室

3. 出席者 近藤委員長、田中委員長代理、松田委員、伊藤委員、広瀬委員
内閣府 原子力政策担当室
黒木参事官

4. 議 題

- （1）原子燃料工業株式会社東海事業所における核燃料物質の加工の事業の変更許可について（答申）
- （2）第8回FNCAコーディネーター会合の開催結果について
- （3）公開フォーラムの開催について
- （4）その他

5. 配付資料

- （1－1）原子燃料工業株式会社東海事業所における核燃料物質の加工の事業の変更許可について（答申）
- （1－2）原子燃料工業株式会社東海事業所の核燃料物質加工事業変更許可申請の概要について
- （2）アジア原子力協力フォーラム（FNCA）第8回コーディネーター会合の開催結果について
- （3）原子力防護専門部会（第1回）の開催について
- （4）原子力委員会政策評価部会（第12回）の開催について
- （5）公開フォーラムの開催について（案）

6. 審議事項

(近藤委員長) おはようございます。第6回の原子力委員会定例会議を開催させていただきます。

本日の議題は、1つが、原子燃料工業株式会社東海事業所における核燃料物質の加工の事業の変更許可についての答申について御審議いただくこと。

2つ目が、第8回のFNC Aコーディネーター会合の開催結果について御報告をいただくこと。

それから、3つ目が公開フォーラムの開催について御報告をいただくこと。4つ目はその他となっていますので、よろしくお願いいたします。

(1) 原子燃料工業株式会社東海事業所における核燃料物質の加工の事業の変更許可について
(答申)

(近藤委員長) それでは、最初の議題から。

(黒木参事官) 最初の議題、原燃工東海事業所の加工事業の変更許可申請についてであります。

最初に、資料1-2でどういう申請内容であったかということを御説明させていただいた後、資料1-1で経済産業大臣宛ての答申文(案)を用意していますので、それを説明したいと思います。

最初、資料1-2であります。これは昨年12月に私ども原子力委員会の方に諮問があった件であります。申請自体は行政庁に1月にあって、そこで検討された上で昨年12月に諮問が出されたというものでございます。

変更の主な内容は、ページをめくっていただきまして2ページ以降に主要な変更内容が記載しております。比較的今回細かな変更が数多くなされているというものであります。

最初に、1番目が建物の増築等ということで、これは例えば建物の入口が第1種管理区域になっていたところを外部の非管理区域の間に入出口を設けて、第2種管理区域として管理をしやすくするなどの変更であります。

2番目の加工設備の変更ですが、これも(1)の部分、化学処理施設の撤去と申しますのは、湿式処理のようにスクラップ再生加工を取りやめることにより関連設備の撤去などがあります。

2 番目の成形施設の主要な設備の新・増設は、第 1 成型施設で粉末作業ボックスを設置したりとか、ウラン運搬台車の基数の変更など。そして、第 2 成型施設での施設の一部増設などであります。

(3) の被覆施設の主要な設備の撤去等ではありますが、一部設備の撤去、さらに熊取では高速増殖炉ウランペット燃料を作成しておりますが、その製造取りやめの為の一部設備の撤去。

それから、(4) が組立施設の主要な設備の撤去等でございます。

3 ページにいろいろな成形施設の変更前後の一覧表が書いてございます。

4 ページであります。3 番目に最大処理能力の変更ということで、第 2 成型施設の最大処理能力が 40 から 80 に変更されてございます。

4 番目が貯蔵施設及び最大貯蔵能力の変更ということで、これは表 3 のとおり、貯蔵能力の変更を行っております。

5 ページではありますが、5 ページには、これは主に安全の問題ではありますが、化学的、核的、熱的制限値の変更を行っております。

最後のページ、6 ページの 6 番、廃棄施設の変更ということで、気体廃棄設備の系統変更、液体廃棄設備の一部設備の撤去、固体廃棄設備の一部設備の移転を行っております。

7 番目が加工の方法の変更で、設備の撤去に伴い、一部加工の工程を削除をしたり、また加工の順序を見直す、検査などの順序を見直すことにしております。

以上のように、熊取事業所での変更を行うことにしたいということに対しまして経済産業大臣より諮問いただいたわけですが、答申の案につきましては、簡単に読み上げさせていただきます。

(中島補佐) それでは、資料第 1 - 1 号、件名のところから読まさせていただきます。

原子燃料工業株式会社東海事業所における核燃料物質の加工の事業の変更許可について (答申)

平成 18 年 12 月 1 日付け平成 18・01・10 原第 4 号をもって諮問のあった標記の件に係る核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律第 16 条第 3 項において準用する同法第 14 条第 1 項第 1 号及び第 2 号 (経理的基礎の部分に限る。) に規定する許可の基準の適用については、別紙のとおり妥当と認める。

原子燃料工業株式会社東海事業所における核燃料物質の加工の事業の変更許可について（答申）

1. 核原料物質、核燃料物質及び原子炉の規制に関する法律（以下「法」という。）

第14条第1項第1号（加工の能力）

本申請は、核燃料物質の加工事業の能力を変更するものではあるが、本申請のとおり許可しても、加工事業者の加工の能力が核燃料物質の需要に比して著しく過大になることはないと認められるとする経済産業大臣の判断は妥当である。

2. 法第14条第1項第2号（経理的基礎に係る部分に限る。）

本申請に係る工事に要する資金は、自己資金を用いることとしていることから、加工事業を適確に遂行するに足る経理的基礎があると認められるとする経済産業大臣の判断は妥当である。

以上でございます。

（近藤委員長）ありがとうございました。

このような答申を経済産業大臣に差し上げることについて、いかがでしょうか。

松田委員。

（松田委員）この答申については同意しますが、このことが地域の皆さんに対してどのように情報公開されていくのか、念のためにお尋ねしたいと思います。

（近藤委員長）私の知るところを申し上げますと、一般的には原子力事業者は地域社会といわゆる安全協定を結んでいることが多い。この地区においても多分そうしていると思います。で、その場合には、その安全協定において、これまた一般的にはということですが、事業の内容を変更申請する等の場合には事前に説明、了解というべきか微妙なんです、よろしいですねとお知らせする約束があるところ、これに従って当該自治体に対して説明がすでにな

されていると理解をしています。私はいくつかの広域自治体の原子力安全対策委員をさせていただいて、何回かはこうした話を伺うことができましたので、その経験を踏まえてこのように申し上げているのですけれども、このあたりは、伊藤委員の方がお詳しいと思います。事務局から何か説明できますか。

（黒木参事官）事務局も個別にこの事例についてははっきりしたことはちょっとお答えするだけの知識ございません。

（近藤委員長）伊藤委員。

（伊藤委員）今まさに委員長言われたとおりだと思います。これは自治体あるいは施設によって協定の中身はそれぞれ違うと思いますが、協定によってはこういう設置変更申請をする場合に事前に了解が必要という協定もあれば、あるいはお知らせでいいという取り決めがある、私もこの場合個別には存じ上げませんが。

いずれにしても、この申請の段階あるいは許可が下りた段階で地元には内容については説明されるというのが一般的であり、今委員長言われたとおりだと思います。

（近藤委員長）田中委員は茨城県の事業者に属しておられたから、より詳しく説明できますね。

（田中委員長代理）はい、委員長おっしゃったとおり、まず年に1回は本年度1年度の事業計画ということで、今年はこういった事業をやりますよ、その中でこういった変更、改修あるいは新設をしますという説明をまずやりますね。それから、個別にそのときどきに応じて、別途応じて説明をして。原子力安全協定は紳士協定ですから基本的には事業者と県知事との間、それから立地市町村長ということですが、周辺、隣接市町村も入っていますのでかなり幅広くそういった御説明をしておくということで。もちろん許可、判断をするのは国ですので、それはあくまで紳士協定上のお話として、説明をさせていただいていました。

（近藤委員長）よろしいですか。もっと詳しい説明が必要なら、当事者に説明を求めることにいたしますけれども。

（松田委員）事業内容を透明にしておくことが大事だと思いますので、国民にわかりやすく説明されていることを確認したいと思い、発言しました。了解しました。

（近藤委員長）はい、ありがとうございました。

他に。

念のため、本件に関して私どもが諮問を受けます許可の判断基準には核燃料物質の加工に関しては平和の目的に限られることというのがないのです。それから、加工の能力が核燃料物質の需要に比して著しく過大にならないことという判断基準、これは計画的遂行の視点の

言いかえになっていると理解していますが、加工事業の市場が国際自由市場になっているとすれば、本来、事業者のリスクでもってなされるべきところ、これを国が判断するのはおかしいのではないかというご質問があって不思議ではないのですが、能力の過剰状態が続くと不正の温床になるので、その未然防止の観点からという説明も無いわけではありませんが、うやはり、幼稚産業の時代の行政統制の名残というべきでしょう。原子力規制法等のこういう基準も適宜に見直していくべきなのではと思いますが、どうしても法律改正しなくてはやっていけないということにならない限り、なかなか腰が上がりません。私どもとしては、時を得て、適切な基準にしていただけるように、こうした課題を整理しておくことを事務局にはお願いした上で、本件についてはこのとおりにご決定をいただきたいと思います。よろしくごさいますか。それでは、これを委員会決定とします。

ありがとうございました。

（２）第８回ＦＮＣＡコーディネーター会合の開催結果について

（近藤委員長）では、次の議題。

（黒木参事官）次の議題であります。第８回ＦＮＣＡコーディネーター会合の開催結果についてであります。これにつきまして、事務局の方から資料第２号に基づきまして御説明いたしたいと思います。

先週でございますが、７日から９日、東京三田の共用会議所でコーディネーター会合が開催されました。参加国１０カ国の予定でございましたが、バングラデシュだけ事情により参加できなくなっております。

コーディネーター会合では個別プロジェクトの進捗状況の報告や今後の計画について議論が行われますとともに、第７回の大臣級会合で報告されました原子力発電分野における協力に関する検討パネルにつきまして、今後の計画などの意見交換が行われております。

１番目、第７回大臣級会合の報告であります。昨年、マレーシアのクアタンので開催された大臣級会合の概要について報告しております。同会合で原子力発電クリーン開発メカニズム（ＣＤＭ）に原子力発電を含めるということについてアピールすることを、パネルが決めたことをテイクノートしたというところがございます。これに対しまして、日本事務局においてそのアピールの草案を準備し、関係国へ配付しておくようにという要請がなされております。

2 番目のアジアの発展と原子力エネルギーについてであります。今回原子力発電分野における協力のためのパネルができたわけですが、その以前に3年間にわたりまして同様のエネルギーの役割検討パネルというものが設けられておりました。その中のその結果等の概要を説明するとともに、新しく設置されるパネル、これは2007年と2008年の2年間で何をやるかということについて検討が行われ、議論の中で人材養成やパブリックアクセプタンスについて高い支持が寄せられるとともに、合わせて経済性や資金調達、廃棄物、安全・セキュリティ・不拡散の重要性も考慮して検討を行い、日本事務局においてこの2年間の検討パネルで何を設定するかということについて本会のコーディネーター会議の意見を踏まえて考えていくようにという要請がございました。

3 番目以降が個別のプロジェクトの報告であります。本FNCAにおきましては8分野、12のプロジェクトが進んでおります。

最初に、原子力広報であります。展示会やセミナーを一層強化すべきだとの提案がなされております。2 ページ目になりますが、事故発生時のプレスの迅速の対応と透明性の確保というのは一般国民の信頼を得るために重要である等々の認識が示されております。また、原子力の広報に関連する研修も、原子力全般の研修で今アンテップという事業を行っておりますが、このアンテップの事業の中に含めるべきだという意見がございました。

それから、(2) が農業であります。①が放射線育種でございます。乾燥に強い優れたソルガム、ソルガムというのは穀物の名称でございますが、大豆や耐虫性のラン、耐病性のバナナの育種の成果について報告がされてございます。この結果は成功裏に終了したと評価されておまして。今後の話ですが、2007年から2011年度にかけまして新しくイネのアミロース含有量を中心とした成分改変。アミロースはねばねばしたうまみ成分のことですが、また品種改良育種に関する研究を実施するという提案がございました。会合におきましては、農家やエンドユーザーに使用してもらうため農業部門との協力が必要ということが確認されております。

②がバイオ肥料であります。バイオ肥料では有効な微生物の選択や放射線滅菌による土壌の改良についての成果が確認されております。2007年から2011年度にかけて新しくプロジェクトを実施することが提案されておりますが、実施に当たっては各参加国のニーズに応えるために農業関係者と協力しつつ、慎重に評価して進めるべきということで合意がなされております。

(3) が医療利用であります。①のサイクロン・PETにつきましては、PET-CTの

利点などが討議されております。第2回ワークショップへの専門家からの更なる協力を確認しております。RCAで実施している同様のプロジェクトのシナジー効果を得るべきである旨、またIAEAからRCAでの遠隔トレーニングを実施しているとの報告がなされております。

放射線治療についてであります。子宮頸癌や上咽頭癌の新しいプロトコルの確立に関するプロジェクトの状況報告がございまして、生存率が他の研究と同等以上との確認がなされております。将来におきましては、PET-CTを使用した診療を加えて放射線治療プロジェクトを使っていくことが提案されております。

(4)が電子加速器でございまして。この部分につきましては1年間の延長が提案され、これが支持されております。また、FNCAとRCAが密接に取り組むべきとの意見が出ております。

(5)が原子力の安全文化であります。プロジェクトの中で実施されたピアレビューの結果について報告されております。参加国は自己評価とピアレビューによって各国の研究炉の安全性が強化されているということを確認しております。今後ともそのような形を継続するということが支持されるとともに、プロジェクト名をより具体的な形で「原子力安全管理」に変更するとの提案がなされ、支持されております。

(6)は放射性廃棄物管理であります。廃棄物管理の安全と信頼はすべてのFNCAの参加国において重要な課題であるという認識がなされ、研究炉の廃止や医療廃棄物の管理などにつきましてもこの活動において対応していく必要があるということで合意されております。

(7)が人材養成についてでございます。これは先ほどのアンテップの中身の事業であります。昨年中国で開催されたワークショップで49の人材が欲しいというニーズの需要と、それから各国が持っている貢献プログラムがそのマッチングというのを行ったわけでございますが、これについて49のニーズとプログラムが一致したとの報告がなされております。また、日中韓の貢献について期待が述べられるとともに、文部科学省の原子力人材交流制度が重要な役割を果たしているということが認識されております。

(8)が研究炉利用です。①がTc-99mジェネレーターについてであります。定常的な製造に向けてメンバー国への技術移転を行う段階だということで、ベトナム、マレーシア、フィリピン、インドネシア、日本において商業化が進められている。本プロジェクトはFNCAの中でも成果が最も明確なプロジェクトの1つであるということを確認しております。

す。

それから、②で中性子放射化分析であります。この放射化分析手法が大気汚染モニタリングへの応用の活動について報告されております。RCAとの協力の強化についても提案されております。本プロジェクトの継続を合意するとともに、放射化分析を食品安全分析など他の分野にも考慮すべきであるとの提案がなされています。

③が研究炉基盤技術であります。炉心燃焼計算の原研の開発したコード、SRACコードなどについての適用や、同コードとMVPコードの使用について発表が行われており、次のテーマとして炉心安全解析を行うということで同意がなされております。

4番目が運用上の課題が幾つか出されております。まず(1)がTc-99mのプロジェクトについてであります。このプロジェクトによってそのテクネチウムが非常に半減期が短い核ですので通常比較的長いオヤカクシのMo-99というものを製造するわけですが、このMo-99の供給についてインドネシアからFNCAの諸国に約束がなされております。さらに、このMo-99の供給のために韓、中、日、日中韓などでの生産が必要であり、バックアップについて検討する必要があるとの確認がなされています。

2番目のバイオ肥料であります。今後協力でなされた成果の実用化に向けて各国が農業関係者をプロジェクトリーダーに選ぶということを検討する必要があるということが確認されております。

(3) プロジェクトの進め方ですが、ワークショップは年に1回で十分であるということ。専門家の交流は常時奨励されるべきこと。オープンセミナーは一般国民や関係者に研究成果を知ってもらうために重要であるとの確認がなされております。

(4) RCAとの協力であります。FNCAとRCAの協力について、今後とも行おうという基本的な合意がなされるとともに、主に放射線加工と放射線治療の2分野についての協力の提案がなされております。

今後FNCAのプロジェクトリーダー町先生とRCAリード国のコーディネーターの間で詳細について議論を行うとともに、次回RCAの政府代表者会合の場において議論を行い、その結果をFNCAの参加国に報告を行うということが決まっております。

以上であります。

(近藤委員長) ありがとうございます。

何かご質問ご意見ございましょうか。あるいは田中委員、伊藤委員、松田委員におかれてはオブザーバーとして参加されたと理解していますが、感想なりありましたらどうぞ。

(田中委員長代理) 初めて3日間大体フルに出席させていただきまして、実際に進んでいるプロジェクトの状況を聞かせていただきました。個々にそれぞれかなり一生懸命やっていて、個々のプロジェクトはそれなりにいい成果が出ていると思います。

それで、今回の議論ではそれを1つ1つ評価した上で、例えばT c - 9 9 mについてみると、今世界の主たる供給国はカナダですが、安定供給の点でかなり怪しい状態にということもありまして、インドネシアはそこをとってかわるぐらいの意気込みで実用化に向かっていきます。医療用の短寿命核種の供給ということですので、供給国が1つだけでは心配ですので、広く安定供給を確保するという意味でアジアF N C A諸国が協力してやるべきであり、そのためにインドネシア以外の国への技術移転についてはもう少しフォローをした方がいいというそんな話がありましたが、それは非常に結構なことではないかというふうに思います。

それから、バイオ肥料とかそういったものについて原子力関係者だけで開発していてもなかなか実用化まで行かないので、その実施に当たっては農業関係者等をプロジェクトリーダーに加えるべきといった結論になったのは非常にいいことだと思います。ベトナムでは既に実地試験を行っているということを述べておられましたけれども、ほかの国でも食料問題とか農業問題というのはアジア地域では重要なので、そういった点では非常によい評価がなされたと思っています。

個々に言うといろいろありますけれども、お金は非常に予算少ない中では全体として大変うまくいってるかなというふうに思いました。

それから、大臣級会合に向かっての議論ですけれども、これについては正直言いましてそれほど深い議論はできなかったのかなと思います。今後日本の事務局の方に宿題として残されていますが、次回7月ぐらいの大臣級会合を予定しているとすると、早急にその会合に向けたいろいろな準備を進めないといけないということです。

原子力発電をアジアに広げるということについてはいろいろな側面からやはり各国によって相当状況が違うので、その中で比較的皆さんが共通認識として受け入れられたのが人材とパブリックアクセプタンスということが出ていますので、このあたりから始めていくということ、それから、場合によっては少しF N C A全体でなく、パイの枠組みをうまく活用しながらF N C Aの中でやっていくという、そんなことを配慮する必要があると思いました。

大体そんな感じです。

(近藤委員長) ありがとうございます。

松田委員。

(松田委員) 各国それぞれに原子力政策の進んだ国、これから進めていく国と取り組みに差がある中で、このようにアジアの国々の方たちが集まって、お互いに顔を合わせて話し合う機会を持つというこのプログラムを高く評価したいと思います。こういうことが各国をつないで原子力の理解につながっていくのだと思いました。このプログラムは続けていくべきだと思いました。

ただ、この成果の報告書の出し方ですが、これで国民にわかりやすく発信されるかという、やはりまだ、国民になかなか伝わりにくいと思います。その1つは、例えば、「パブリックアクセプタンス」というこの片仮名、この言葉はまだ個々に受けとめ方が違います。それから、「ピアレビュー」という片仮名、これも一人一人の受け取り方が違ってきます。それから、「49の人材養成ニーズ」というのも、49というのは具体的に何なのかということがほとんどの方はわからないと思います。

ということで、この文書が原子力委員会の報告書になるのなら、これらについて括弧書きで日本語訳をつけたらと思います。

以上です。

(近藤委員長) 伊藤委員。

(伊藤委員) 私も初めてこのFNCAの会合に出席させていただきました。第一印象はアジア諸国の間でやはり予想していたとおり、原子力の今の利用状況というのは非常に大きな違いがあるなと実感をしたわけですが。

そういう中で非常に印象深かったのは、アンテップ、教育の関連プログラムですか、ここで各国がニーズとそれからシーズをそれぞれ出し合って、そのマッチングを見ながらこれから進めていくという、これは非常にいい試みだなと思ひまして。このメカニズムをうまく動かしていくといろいろなところに使われる。

この教育だけでなく原子力の平和利用の利便性、恩恵といいますか、そういうものをお互いにアジアの中で活用していくという上でも教育に限らず、それぞれの持てるもの、シーズ、そしてそれぞれの社会環境あるいは今の状況を背景にしたニーズ、こういうものをお互いに出し合いながらお互いに何ができるか、ああいう場に出し合いながら。そして、それが具体化していけば、これはあの場で必ずしもできる話ではないですから、バイの関係でやっていくとか。あるいは場合によっては民の協力関係をつくっていくと。いろいろな発展があると思います。

いずれにしてもああいう非常にレベルが違う、もう既に発電炉を持っている国から研

究炉しか持っていない国、あるいはまだそこまでもっていない国とさまざまな中で、非常に状況が違う中での協力という意味ではやはりニーズとシーズをお互いに出し合いながら協力し合っていくということは非常にいい関係かなと。私も全部出ていたわけじゃないものですから全体の話はわかりませんが、これは非常に強く印象受けました。

それとやはりこういう中で原子力をお互いに利用していくという上ではやはり、ここにも出ていますが、安全文化、それからニペアセキュリティ、核拡散防止から始まってテロ対策あるいは放射線防護、核防護、こういうものを含めたニペアセキュリティというのも非常に大事な話になって。そういう意味でもぜひお互いに協力しながらやっていくという意味で。

ここは多分入口のところでお互いのニーズ、シーズを見ながら、あるいは何ができるのかということをやっていく場だと思いますが。そういう意味では非常に広範囲にわたって意見をお互いに出し合いながらやっていく場としては非常にいい場だなと、そんなふうに思います。ぜひこれ今後とも継続していくべきプロジェクトだなという印象を受けました。

以上です。

(近藤委員長) はい。広瀬委員、何かコメントありますか。ありませんか。

それでは、私から幾つかコメント。1つはこの紙のクレジット、原子力委員会と書いてあるんですけども、これ、委員会への報告でしょう。ですから、事務局という言葉が省略されているというならわかりますが、このままではどうか。第二、私はこの会議の冒頭、大臣級会合を踏まえてこの会議に対する期待を幾つか述べたのですが、応えていただいたのかどうか。たとえば、この専門家パネルの設置は2回目でもありますので、形式要件についても頭を体操していただくべきということで、例えば人材養成とかパブリックアクセプタンスについては現在研究プロジェクトが進行しているのですから、それを効果的に活用したらと提案したところです。別に行うなら、プロジェクトというのはミッションが何で、専門家パネルのミッションは何だという整理が必要になる。そこら辺の整理をちゃんとしてくださいという意味で、プロジェクトの中から専門家を集めて、プロジェクトの中でパネルやった方がいいのではと申し上げたと思いますが、そういうことが議論された形跡がないのが残念です。

それから、このパネル討論はもはや2回で終わるものじゃなくて、継続的にテーマを転がしていくことになりそうなので、ある程度テーマ候補の取り上げ順位を考えるということも重要ということも申し上げたのですが、それを考慮しつつの議論されたということですかね。

それから、この会合の前の定例会議で説明のあった今回のコーディネーター会合のミッシ

ョンの一つに、終了したプロジェクトの評価があったと思うんですけれども。そのことについて、何となく書いてあるんだけれども、これが議事録とすれば、そういうことが明示的に書かれるべきと思うのです。これを読むと何となく電子加速器のプロジェクトとテクネシウムプロジェクトが事後評価の対象であったらしいとわかるんだけれども、最初ここで皆さんにお約束したというか公表した議題との整合性があるまとめ方をしていただいた方がいいと思います。

それから、アンテップという言葉が何ではっきり出てきていないのか、人材養成のプロジェクトの中のパートとしてアンテップがあるという整理なんですか。

（黒木参事官）はい。

（黒木参事官）はい、そういう整理です。

（近藤委員長）これは大分大臣級会合でも非常に高く評価したのに、このコーディネーター会合では明示的でないのが気になりますね。ここに（７）に書かれている人材養成プログラムはアンテップそのものと考えていいという整理なら、それがわかるように、（７）には少なくともアンテップという言葉が出てこないといけないのではありませんか。

それから、アンテップについて私が申し上げた、お願いしたのは、伊藤先生がおっしゃられるように、確かにマッチングがたくさんあったというのは結構なことですが、それはきちんと前進させるとともに、マッチしなかったニーズに対するケアもよろしくお願いしますと申し上げたのですけれども、そのことは議論されなかったのでしょうか。

それから、あとは細かいことですけれども、テクネプロジェクトという名称が統一されていない。また、個別のプロジェクトにおける運営の問題と全体としての運営の問題の整理が、議事録を整理する仕方の問題なのかもしれませんが、気になりますね。

以上、こんなところでお話することでもないこともお話ししてしまって申しわけないですが。事前にほとんど見る時間が無かったところ、これが原子力委員会の紙となると責任がありますので、申し上げました。少し整理していただいたらと思います。

（黒木参事官）最初に、このクレジットは委員の先生方に必ずしも了解いただいていないものですので、少しクレジットの方をかえるか、もしくは内容を精査して、次回の定例会までに整理した形にして御報告を申し上げたいと思います。

それから１点、委員長のお話の中で新しいパネルの議題についてであります。各国からほとんど一言ずつ言うぐらいの時間しか余りとれなかったんですけれども、その中で委員長から話があった人材やパブリックアクセプタンスは個別プロジェクトにもあるのでそちらで

実施するという事柄も検討すべきではないかという趣旨の意見も出されております。それは追加的なご説明であります。

以上です。

（近藤委員長）はい。ありがとうございました。

それでは、ちょっと整理させていただくということで御了解いただければと。

では、ありがとうございました。

（３）公開フォーラムの開催について

（近藤委員長）次の議題。

（黒木参事官）次の議題は、公開フォーラムの開催についてであります。資料第５号でございますして、事務局の方からご説明したいと思います。

公開フォーラムの開催につきましては今回原子力委員会としてこういう名称のフォーラムを開催するという事を新たに用いるわけでございます。

その開催の趣旨といたしまして、公開フォーラムは原子力委員会が決定した原子力政策等について、国民の意見を聴取しつつ説明を行うことで、国民の求める情報を提供することを目的とするとしております。

公開フォーラムの開催については、特定のテーマを設定し分野を限定することにより、丁寧でわかり易い説明を行うとともに国民との対話を通じた理解活動を行う。そこでいただいた意見等を適宜に今後の原子力政策の評価等の参考とし、その内容を関係行政機関に伝達する等、今後の活動に資することとするとしております。

開催のテーマとしては、これは毎回テーマは変わっていくものだと考えておりますが、今回の最初の１回目、２回目については「食品への放射線照射について」実施したいというふうに思っております。１回目が東京会場ということで３月６日、２回目が京都会場ということで３月２９日に開催していこうと思っております。

内容は、開催テーマについて我が国の基本的な考え方の紹介とパネルディスカッションを行うということで、会場参加者との意見交換をかなりの時間をとって実施したいというふうに考えております。

２ページ目が今添付してございます司会、東嶋先生にお願いしたいなと思っております。パネリストの先生方、ここに記載しております方にお願いしたいと思っております。

あと、別紙１、２にそれぞれ東京会場と京都会場の場所のご案内図が記載しております。

以上でございます。

（近藤委員長）はい、ありがとうございました。

ご意見どうぞ。

また、文章の問題を取り上げて恐縮ですが、この開催趣旨の文章は今後使われるのでしょ
うから、ちょっと直しておいた方がいいように思いますけれども。公開フォーラムは、目的
とする、でしょう。その次の、開催についてはというのは、意味がわからないかもしれない。
それから、そこでいただいた意見等を適宜、というのはやめましょう。単にそこでいただ
いたご意見等は参考とするとともにその内容を関係機関に、でしょうか。その先の今後の活動
というのはだれの今後の活動なのか。原子力政策、今後の活動というのは原子力委員会の活
動ですか。

（黒木参事官）原子力委員会です。

（近藤委員長）いずれにしても、文章を丁寧にわかりやすくした方がいいと思います。

（松田委員）でも、これはフォーラムの開催案として、この委員会に出された事務的なもの
と思うのですが。

（近藤委員長）いや、これで公表してよいかと裁可を求めて事務局から提出されたものであり、
持続性がある文章だから少し丁寧に直しておいた方がいいと思います。事務局困っちゃいま
すか。

（黒木参事官）ちょっと東京会場と京都会場と両方でやって、両方で御案内をかけようと思っ
ていまして。東京会場だとちょっともっと早くした方がいい感じなんです、京都会場だと
もうちょっとおそくアナウンスした方がタイミング的にはいいということではあって、それ
で今日おかけしたんですけれども。

どうしますかね、フォーラムの開催について、案については次回には文言については修正
するとともに、あとは公表資料は実はこれとほぼ同じような文章を使っておりましたので、
また別途公表資料の方は公表資料の方で御相談させていただきます。

公開フォーラムを開催する中身は御承認いただいたということで、必要があれば次回ちょ
っと公開フォーラムについて参考として書いた部分を参考配付するような形で、内容につ
いては御了解いただいたということで進めさせていただければと思います。

（近藤委員長）はい。それでは、このテーマについてこの２つの会場でこの日程で開催する
ということについては御了解いただいた。追ってこの趣旨文等は精査して適切にさせていただく

ということでしょうか。よろしゅうございますか。

事務局、それでいいですか。

（黒木参事官）ええ。参加要領を今つくっていますので、それを早急にやらせていただきたいと思います。

（松田委員）もしこれが市民向けの文章としてこのまま出てくるのであればとてもわかりにくいので修正したほうがよいと思いますので、ぜひ文章の修正をお願いします。

（近藤委員長）はい。今のようなことで御了解いただいたとします。ありがとうございました。

（４）その他

（近藤委員長）その次の議題。

（黒木参事官）一応議題については以上でございますが、配付資料としまして、第３号と第４号の資料をプレスリリースとして配付してございます。第３号は、原子力防護専門部会第１回の開催についてというものでございまして、２月１６日に開催する予定でございます。

本件につきましては前回第１回専門部会ということで開催したところでございますが、その専門委員としての任命行為がおくれたということがございまして、前回の会合は準備会合ということで整理いたします。今回２月１６日を第１回会合として改めて開催するものであります。

それから、資料４号については、政策評価部会第１２回を２月２０日に開催するというご案内でございます。よろしくお願いいたします。

（近藤委員長）よろしくお願いいたします。

他に何か。委員各位から何かございますか。ありませんか。

それでは今日はこれで終わります。

（黒木参事官）次回の会合は２月２０日、火曜日、１０時半からこの共用６４３会議室で開催する予定となっています。

（近藤委員長）これで終わります。